

熊本大学大学院自然科学研究科(博士前期課程)建築学専攻
熊本大学大学院自然科学研究科(博士後期課程)環境共生工学専攻
人間環境計画学講座

学位論文審査基準

Evaluation Criteria for Theses in Department of Architecture and Environment Planning, Field of Architectural and Civil Engineering, Graduate School of Science and Technology

学位審査に当たっては、学位申請者が本学及び大学院自然科学研究科環境共生工学専攻人間環境計画学講座の定める学位授与の方針を満たしていることを前提とする。また、学位申請者が学術研究における倫理性を有していることを条件とする。

As a prior condition to apply for a diploma, a candidate must satisfy all the requirements for the degree that are specified by the university and the Department of Architecture and Environment Planning, Field of Architectural and Civil Engineering, Graduate School of Science and Technology. A candidate is required to conduct his/her scientific research in accordance with ethical standards.

博士前期課程 建築学コースおよび建築都市文化コース 学位論文審査基準

Evaluation Criteria for Master's Thesis of Architecture Course and Architectural Urban Culture Course

次の事項を全て満たしていること。

All of the following requirements must be satisfied.

1. 課題設定の明確化 (Definition of Issues)

明確な問題意識とそれを解決すべく研究の意義および必要性が述べられていること。

Accurate awareness of the issues as well as the purpose and necessity of the research to solve the issues must be mentioned in the thesis.

2. 先行研究・資料の取扱いの適切性 (Proper Treatment of Preceding Studies and Data)

当該分野の先行研究・資料の把握と言及に加え、それを踏まえた研究の位置づけがはっきりしていること。

Previous studies and data in the relevant research filed and positioning of this study in the field must be mentioned in the thesis with clear and correct understanding of them.

3. 研究方法の妥当性 (Appropriateness of Research Method)

研究の目的に適した研究方法が用いられていること。

Proper methods for attaining the research purpose must be used.

4. 論証方法や結論の妥当性と意義 (Appropriateness and Significance of Demonstrational Process and Conclusion)

問題設定、分析、結果、考察までの論旨が明確でありかつ一貫していること。

The point of an argument of the thesis including the research subject, analyses, results, and discussion must be consistent and clear.

5. 論文構成・表現・表記法の適切性 (Appropriateness of Construction, Expression and Notation of Thesis)

学術論文としての語句の使い方や文章表現が適切であること。

Appropriate expressions must be used for the thesis as an academic paper.

6. 学術的または社会的な貢献 (Contribution to Academia or Society)

学術的に一定の新規性または独創性があるか、または社会の要請に答える可能性を持っていること。

The thesis must include the contents that show originality, creativity, or possibility of meeting social demands.

博士前期課程 建築設計コース 学位論文(修士設計)審査基準

Evaluation Criteria for Master's Project of Architectural Design Course

次の事項を全て満たしていること。

All of the following requirements must be satisfied.

1. 課題設定の明確化 (Definition of Issues)

明確な問題意識とそれを解決すべく計画の意義および必要性が述べられていること。

Accurate awareness of the issues as well as the purpose and necessity of the design to solve the issues must be mentioned in the project.

2. 先行計画・設計の取扱いの適切性 (Proper Treatment of Preceding Plan and Design)

当該分野の先行計画・設計の把握と言及に加え、それを踏まえた計画の位置づけがはっきりしていること。

Previous plans and design in the relevant field and positioning of this plan in the field must be mentioned in the project with clear and correct understanding of them.

3. 設計手法の妥当性 (Appropriateness of Design Method)

計画の目的に適した設計手法が用いられていること。

Proper methods for attaining the project purpose must be used.

4. 設計手法や作品の妥当性と意義 (Appropriateness and Significance of Design Method and Project)

課題設定、設計手法、設計作品の内容が明確でありかつ一貫していること。

The point of an argument of the project including the subject, method, and design must be consistent and clear.

5. 表現・プレゼンテーションの適切性 (Appropriateness of Expression and Presentation of Project)

修士設計としての表現やプレゼンテーションが適切であること。

Expressions and presentation must be proper as a Master's project.

6. 学術的または社会的な貢献 (Contribution to Academia or Society)

学術的に一定の新規性または独創性があるか、または社会の要請に答える可能性を持っていること。

The project must include the contents that show originality, creativity, or possibility of meeting social demands.

博士後期課程 学位論文審査基準

Evaluation Criteria for Doctoral Thesis

次の事項を全て満たしていること。

All of the following requirements must be satisfied.

1. 課題設定の明確化 (Definition of Issues)

明確な問題意識とそれを解決すべく研究の意義および必要性が述べられていること。

Accurate awareness of the issues as well as the purpose and necessity of the design to solve the issues must be mentioned in the project.

2. 先行研究・資料の取扱いの適切性 (Proper Treatment of Preceding Plan and Design)

当該分野の先行研究・資料の把握と言及に加え、それを踏まえた研究の位置づけがはっきりしていること。

Previous plans and design in the relevant field and positioning of this plan in the field must be mentioned in the project with clear and correct understanding of them.

3. 研究方法の妥当性 (Appropriateness of Research Method)
研究の目的に適した研究方法が用いられていること。
Proper methods for attaining the research purpose must be used.
4. 論証方法や結論の妥当性と意義 (Appropriateness and Significance of Demonstrational Process and Conclusion)
問題設定、分析、結果、考察までの論旨が明確でありかつ一貫していること。
The point of an argument of the thesis including the research subject, analyses, results, and discussion must be consistent and clear.
5. 論文構成・表現・表記法の適切性 (Appropriateness of Construction, Expression and Notation of Thesis)
学術論文としての語句の使い方や文章表現が適切であること。
Appropriate expressions must be used for the thesis as an academic paper.
6. 学術的または社会的な貢献 (Contribution to Academia or Society)
学術的に新規性または独創性があるか、または社会の要請に答える可能性を持っていること。
The thesis must consist of the contents that show originality, creativity, or possibility of meeting social demands.

**熊本大学大学院自然科学研究科環境共生工学専攻人間環境計画学講座
「学位授与の方針」**

博士前期課程(建築学専攻)

1. 学位授与の要件

前期課程に2年以上在学し、31単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上で、修士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて本研究科教授会での審議によって最終判定される。

2. 修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

- ・ 学士課程教育の基盤の上に、建築学における構造系、環境系、計画系の各専門分野の高度な知識を修得し、生涯を通して学習を継続する力と知識を最新のものに

更新する姿勢を有している。研究活動において、情報を駆使して、アイデアを発展させ、応用する創造力を持っている。

なお、建築設計コースにおいては、上記の知識や能力のうちとくに設計能力に重点をおいて修得し、建築都市文化コースにおいては、出身学部・学科の専門分野の知識を基礎とした上で、建築学における基礎的な知識に加えて、高度な建築分野の知識を有している。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

- ・高度で普遍性のある教養を身に付け、建築学の専門的知識と統合する能力を有し、自らの知識や理解を適用する際の社会的、倫理的責任を考慮しつつ、複雑な課題を解決できる。

3. グローバルな視野と行動力

- ・現代社会が直面する課題の解決に挑戦するために、世界の多様な文化・歴史・制度を理解し、国際的に通用する建築学の専門知識・技能及び自らの考えをもち、それらを専門家に対しても、一般の人々にも、明確に伝えることができるコミュニケーション力を修得している。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

- ・建築学に関する自らの知識、技能、そして問題解決能力を、専攻分野及び広い学際的な領域で発揮して、地域における指導的人材として活躍できる。

5. 専攻固有の項目

- ・「建築設計・計画」・「建築環境・設備」・「建築構造」・「建築生産」等の建築諸分野における堅実な研究成果を生み出す能力だけでなく、それらの諸分野を統合した「建築学」における自らの研究の意義を常に問い直し続けられる能力を持っている。

博士後期課程

1. 学位授与の要件

当該課程に3年以上在学し、自然科学研究科が定める単位（必修のプロジェクトゼミナール4単位の他に選択8単位以上の合計12単位）以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、博士論文の審査及び最終試験に合格することとする。

ただし、在学期間に関しては、優れた研究業績を上げた者については、当該課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

学位審査は、主査1名、副査2名以上により構成される審査委員会により行われ、その報告を受けて本研究科教授会での審議によって最終判定される。

2. 修得すべき知識・能力

1. 高度な専門的知識・技能及び研究力

都市空間・建築などの人間が生活する環境の計画に関する体系的な知識、または持続可能な地球環境構築や環境評価体系の構築など、人間を取り巻く環境の管理

に関する体系的知識、あるいは人間が構築してきた歴史的環境や空間の理解と、それらの修景・保全に関する最新の理論と技術に関する体系的知識を修得している。そして、これらの各分野に必要な技術と方法を修得し、高い専門性を有する到達目標を設定し、深い洞察力と総合的な判断力をもって自律的な研究生活ができ、その成果を以て知識基盤社会に貢献できる。

2. 学際的領域を理解できる深奥な教養力

人間の尊厳と環境との調和を認識し、高度で普遍性のある人文・社会科学の知識をもち、持続可能な循環型社会実現のための広い意味での環境問題を理解する教養を有している。さらにこれらの教養を基盤として、自らの知識や理解を研究に適用する際の社会的、倫理的責任を考慮しつつ、俯瞰的視野をもって学術の新たな地平を切り開く能力を有している。

3. グローバルな視野と行動力

建築学及び建築学の諸分野における独創的な研究により、学問分野の先端知識を創造し、その成果を国内外に発表し、グローバル社会における知識の最前線の拡大に貢献できる。

4. 地域社会を牽引するリーダー力

建築学及び建築学の諸分野の観点より、地域社会における産業、文化、教育、政策、福祉などの振興に寄与する先端的研究者及び研究マインドをもつ高度専門職業人として、地域社会のリーダーとなる力を有している。

5. 専攻固有の項目

細分化された建築諸分野における堅実な研究成果を生み出す能力だけでなく、それらの諸分野を統合した「建築学」における自らの研究の意義を常に問い直し研究し続ける自己批判の上で、「建築学」に貢献する研究成果を生み出す能力を持っている。